

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導と生徒の主体性を育む学習活動を推進する。</p> <p>②基礎的な学力と応用力の育成を図り、組織的な授業改善をさらに推進する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動など生徒一人ひとりが積極的に取り組み、主体的に生きる力を育成する。</p>	<p>①生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導と主体性を育成する学習指導に取り組む。</p> <p>②組織的な授業改善をさらに進める。</p> <p>③生徒会行事に生徒一人ひとりが主体的に取り組むよう計画や運営を支援する。</p>	<p>①全クラス多展開を継続し、きめ細やかな指導と生徒の多様な進路希望に対応できるよう教育課程の再編成等も視野に入れる。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等を育成するため研究授業や教員相互の授業見学等をより推進する。</p> <p>③生徒会役員や学校行事の実行委員に対し、きめ細やかな助言、指導をする。</p>	<p>①生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導や生徒が主体となる学習活動が展開できたか(生徒による授業評価)。</p> <p>②組織的な授業改善や教員相互の授業見学をさらに推進することができたか。(授業見学回数と教科会の振り返り)</p> <p>③生徒会行事に生徒が主体的に参加することができたか。(アンケート等) ・取組みの過程で課題の発見や課題解決に向けて、主体的に考え、実践したか。(アンケート等)</p>	<p>① 少人数展開をいかにしたアクティブラーニングの定着ができ、授業の充実感の評価を高めることができた。</p> <p>② 確かな学力向上のための授業研究を実施した。</p> <p>③ アンケート結果では、体育祭、彩綾祭(文化祭)において75%以上の生徒が主体的に取り組むことができたと回答した。球技大会においても生徒の参加する姿勢が向上し、運営する力も出てきている。</p>	<p>① 教員配置の困難さがあるが、少人数展開を継続。</p> <p>② 授業見学回数をさらに増やすとともに、研究協議の形態を改善。</p> <p>③ さらに主体的な取組となるよう支援する。</p>	<p>・教員相互の授業見学について、さらに活発になるよう期待する。</p> <p>・毎年、授業改善のテーマを明確にし、授業研究することが大切である。</p>	<p>・アクティブラーニングが積極的に取り入れられ、授業研究も促進された。</p> <p>・生徒会行事の運営に生徒が積極的に参加することにより、生徒の主体的に生きる力を育成することができた。</p>	<p>・よりよい授業を目指し、継続してアクティブラーニング等の授業研究、実践に取り組む。</p> <p>・学校行事を通して、生徒の自主自律を促し、さらに主体的な運営ができるよう助言する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの個に応じた課題解決能力の育成と支援体制の充実を図る。</p> <p>②部活動の充実を通して責任感やコミュニケーション力の涵養を図る。</p>	<p>①生徒指導のあり方を、指導から支援へとバランスよく移行するために、教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>①スクールカウンセラー制度やスクールメンター制度の周知を図り、多くの生徒が利用しやすい環境を築く。また、教育相談コーディネーターの活用を周知し、必要に応じてケース会議を開催する。</p>	<p>①利用件数 相談件数 ・利用、相談することで問題解決が図れたか。または、解決の糸口となったか。</p>	<p>① 相談日はほぼすべての枠が相談で活用された。また、外部機関との連携による解決を図った。ケース会議の開催を丁寧に行った。</p>	<p>① 相談者が固定化することで緊急対応が困難であった。拠点校等他校との連携を模索する。</p>	<p>・SNSによる人間関係のトラブルなど、この先増加すると考えられるため、その対策を考えておく必要がある。</p> <p>・モノを大切にすることを育てていく必要がある。</p>	<p>・ケース会議の開催回数が増加し、一人ひとりの生徒への支援に多くの教師が関わった。</p> <p>・スクールカウンセラー制度を十分に活用した。</p> <p>・教育相談コーディネーターの負担が増加しているため、組織的な取組が必要である。</p>	<p>・困り感のある生徒への支援を充実させるため、教育相談体制を見直し、組織的な取組としていく。</p>
3 進路指導・支援	<p>①生徒の主体的な活動を通して、進路実現・自己実現を果たす力を育成する。</p> <p>②生徒のあらゆる進路希望を十分に支援できるキャリア教育体制を構築する。</p>	<p>②各学年を中心に、綾瀬ゼミナールをはじめとする進学講習を充実させ、学習意欲の向上を図る。</p>	<p>②「総合的な学習の時間」「進路講座」「進路ガイダンス」等を通じて進路意識の向上を図るとともに、進学講習、実力診断テストや進学模試、就職・公務員模試等を実施し、学習意欲を喚起する。</p>	<p>②進路講座開講数と参加人数 ・進路ガイダンス実施回数 ・進学模試、就職・公務員模試実施回数と参加人数</p>	<p>② 35講座217人が受講。ガイダンスは3年で12回実施。模試18回実施。スタディサポート等の判定をキャリアカウンセリングに生かした。</p>	<p>③ 判定テストの研修を充実させる。ACTで高大連携の展開を進める。キャリア教育の研修を一層進める。</p>	<p>・日々の小さなことの積み重ねが、3年進路の良い結果につながっていると思う。</p>	<p>・センター試験受験者が着実に増加した。</p> <p>・「行けるところ」という進路選択から「行きたいところ」への進路選択へと指導を充実させる。</p>	<p>・切れ目の無い3年間の進路支援計画を見直し、実践する。</p> <p>・主体性を育成するキャリア教育に取り組む。</p>

4	地域等との協働	①地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	①地域との連携・協働を通じて、生徒に地域での役割や活動の場を設定し、生徒の自己肯定感の向上を図り、判断力、実践力を育成する。	①地域における、防災訓練、花植え作業、商店街との共同企画イベント等に、生徒を積極的な参加を促す。 ・ふれあい交通安全指導や交通安全出前授業を通じて地域連携、交流を図る。 ・学校全体として、主体的な活動を支援し、ボランティア活動に対する意識を高める。	①実施回数 参加者数 地域・自治会等からの意見など ・実践の結果を事前事後のアンケートやワークシートの記述から分析し、生徒の自己肯定感の推移について調査する。	① 様々な活動で地域と連携した取組を行い、生徒の自己肯定感も77%が向上したと実感できた。	① 事前の打合せを綿密に行うことで、自己肯定感を一層充実させる。連携する小学校や中学校を拡大する。	・あいさつも爽やかに生徒の感じが大変良くなっている。 ・地域の活動に対して親身になって協力してくれる。	・地域から愛され、近隣の中学生の入学志願が多い高校として定着してきた。 ・生徒の自己肯定感を育成する場面が多くなっているとともに、小学校の児童が本校生徒を目標とすることができた。	・地域との連携では、特に小学校や中学校との連携を拡大し、より多くの生徒に自己肯定間を実感させ、自働・生徒に将来の高校生像などをイメージできる機会を増やしキャリア教育を充実させる。 ・主体的な地域貢献活動を支援し、ボランティア活動を充実させる。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の整備と広報活動の充実に取り組み、開かれた学校づくりを進める。 ②安心・安全の学校づくりを基本に情報管理を徹底する等、事故不祥事ゼロとする。	①広報活動を充実させ、信頼される学校づくりを推進する。 ② 事故不祥事ゼロを目指す。	①ホームページを通じた情報発信を随時行い、学校の取組みを外部にアピールするとともに、家庭への連絡も掲載し、家庭と学校との連携強化に活用する。 ②年間を通して、計画的に職員研修会を行う	①ホームページへの更新状況とそのアクセス状況。 ・職員対象研修会の充実状況。 (職員対象日常点検等)	① アクセス件数は4万6千回を超えた。 ② 不祥事防止会議を定期的に行い、職員の意識の向上を図った。	① ホームページの更新をさらに加速させ、正確な情報発信に努める。 ② 職員意識のさらなる向上を図る。	・職員の体調、メンタルヘルスなどの管理を大切にしてください。	・綾瀬市を中心に地元の中学生からの入学志願者が増加した。 ・日常点検により大きな事故不祥事はないが、相互点検や業務の見える化により、ヒヤリハットもなくす。	・継続して、正確な情報発信に努める。 ・継続して活気ある職員室とし、会話の多い職場とする。 事故不祥事防止研修を続けて実施する。